

JICA 研修「アジア地域 気候変動への適応にかかる能力開発」 実施報告書

土木研究所 ICHARM は、2011 年 2 月 8 日（火）から 3 月 10 日（木）にかけて、JICA 東京からの委託のもと、標記研修を実施しました。本研修は、3 ヶ年計画で実施されていますが、はじめの 2 ヶ年は気象研修所にて行われており、ICHARM で実施するのは本年が最初になります。

本研修の目的は、途上国の行政官に対し、気候変動による河川への影響を評価できる能力、およびそれに対する適応策を立案できる能力を強化することです。

研修生は計 7 名（バングラデシュ・タイ・フィリピン・ベトナム各 1 名、インドネシア 3 名）です。

研修初日には、JICA 東京からは下田経済基盤開発・環境課長、吉田主任調査役、佐藤コーディネーター、ICHARM からは竹内センター長、Jayawardena 研究・研修指導監、田中グループ長の出席のもと、開講式を土研本館 2 階講堂にて行い、研修を開始しました。



開講式の様子

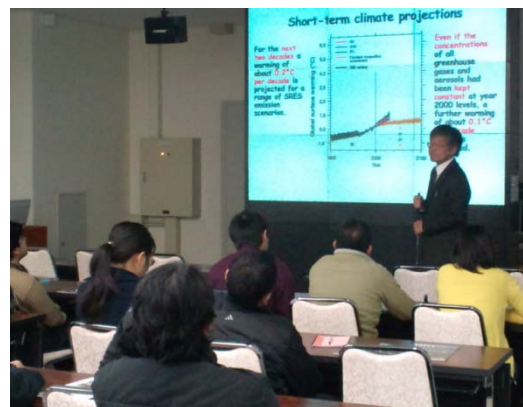
研修 1 週目においては、竹内センター長（ICHARM）から災害概論の講義と、引き続き研修生の政策立案能力向上のために Project Cycle Management（PCM）演習を 2 日半行い、ツリー図を描きながら客観的に現状課題を分析する方法やそれに対する対応策立案の方法を学びました。

2 週目においては、気候変動に関する様々な基本講義を行いました。気象研究所においては、鬼頭 気候研究部長や上口研究官並びに仲江川主任研究官から IPCC や高解像度気候モデルによる将来予測とその信頼性評価などについて講義を頂きました。国土交通省 中村課

長補佐からは、我が国における気候変動適応策の講義、JICA 石渡専門員からは途上国における適応策の講義を頂きました。ICCHARM からは、深見上席研究員による GCM の活用法、黄主任研究員による水文統計、佐山研究員による降雨・流出分析、および菅野研究員による水文観測などの講義を実施しました。



PCM 演習



鬼頭部長（気象研究所）による講義



石渡専門員（JICA）による講義



菅野研究員（ICCHARM）による講義

3 週目に入ると、気候変動影響評価に関する具体的な演習を開始しました。2 週目に引き続き黄主任研究員による水文統計演習、また鍋坂研究員、小澤研究員、川上研究員による IFAS 演習を行いました。IFAS 演習においては、研修生自国のデータを使用しながら、気候変動により降雨量が増加した際にどの程度流量が変化するかについてシミュレーションを行いました。

現地視察に関しては、東京都第四建設事務所のご協力のもと、人口稠密な都市内における洪水対策の取り組みとして東京都白子川調節池群を、国土交通省荒川下流河川事務所のご協力のもとに新田地区のスーパー堤防、北区におけるまるごとまちごとハザードマップ

を視察しました。また、我が国における伝統的な洪水対策の視察を目的として、国土交通省延岡河川国道事務所、宮崎県延岡土木事務所、並びに NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワークの皆様のご協力の下、宮崎県延岡市の五ヶ瀬川・北川を訪問し、e-防災マップの取り組みや、我が国に3箇所しか残っていない畳堤、北川における霞堤や自然に配慮した河道掘削、家屋嵩上げの現場、あるいは過去の洪水水位を示した表示板などについて学び、我が国の洪水対応策としては、大規模な構造物だけではなく、自然に逆らわない洪水対策や防災意識向上のための取り組みなどが数多く行われていることに驚いていました。



東京都 白子川調節池内の視察



まるごとまちごとハザードマップの視察



延岡河川国道事務所 坂本課長による
概要説明（リバーパル五ヶ瀬川にて）



五ヶ瀬川流域ネットワーク 土井理
事長と山田氏による活動説明



五ヶ瀬川に残る畳堤



延岡河川国道事務所 甲斐係長による
河道掘削現場の説明



延岡土木事務所 高橋課長による
霞堤と洪水実績板の説明



家屋嵩上げ現場の説明



家屋嵩上げ最中の現場の説明

現地視察の後、研修生はレポート作成に取り組み、PCM 演習で学んだ方法を用いながら、帰国後どのような活動を行うかについてのアクションプランを作成し、研修最終日に発表を行いました。



アクションプラン発表



竹内センター長の講話

発表後、JICA 青山国際協力専門員、吉田 主任調査役、佐藤コーディネーター、竹内センター長、田中グループ長の出席のもと、土研本館 2 階講堂にて閉講式を行いました。青山専門員から研修生全員に修了証が手渡された後、研修生を代表して Mai Khiem Van 氏（ベトナム）が挨拶を述べ、研修は無事に終了しました。

最後となりましたが、お忙しい中現地視察にご協力頂いた東京都第四建設事務所、国土交通省荒川下流河川事務所、国土交通省延岡河川国道事務所、宮崎県延岡土木事務所、NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワークの皆様には、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

